



環境にやさしい防草材の調査研究(実践編)―中山間地の高齢者を救う!ぞ

		助成区分	植樹	環境保全	調査・研究	教育・啓蒙
実施状況	参加者60人	参加者満足度	100%	活動の全体目標に対する達成度	100%	100%

活動目的

環境にやさしい防草材を研究し、持続可能な景観保全を目的とする。

活動内容

【概要】前年度の継続調査及び、袋を用いた新たな方法について研究

【内容】前年度の調査結果から、もみ殻は、防草効果があることが分かってきました。前年度は、大きな吹き付け機械を用い、専門業者による吹き付けを行ったことから、今年度は、専門的な機械を用いなくても、地域の誰もが防草作業が出来るように「もみ殻」を生分解性の袋に入れて使用しても同じような効果が得られるか研究を行いました。

【具体的な材料】もみ殻、生分解性のある麻袋(幅60cm×高さ100cm程度)

【具体的な調査方法】

- ・もみ殻を生分解性の袋に詰め防草効果、作業性を調査する。
- ・上記方法により防草効果を調査し併せて植物にどのような影響をもたらすか、有効性を調査する。

成果

【防草効果】

前年度の調査結果を踏まえ、麻袋を用い次のとおり調査を行いました。

- ①麻袋1重、もみ殻なし……草が多少生えたが、防草効果も多少あることが分かりました。
- ②麻袋2重、もみ殻なし……①より草は少なかった。防草効果も多少あることが分かりました。
- ③麻袋、もみ殻5cm……下からの突き上げる草、種の飛散による上から生える草がほとんど無かった。

【作業性】

一袋当たりの麻袋、もみ殻共に軽く取り扱いも良く設置が容易であると判断できました。また、一方では、大きな面積を行う場合には、人力施工では負担が大きくなると感じました。

工夫した点

目標でもある「環境に優しい」ことを一番の目標とし、生分解性の材料を用いました。また、実現性も考慮し専門業者しか作業できないのではなく、地域の方が誰でも作業出来るよう袋詰めによる方法を検討しました。

麻袋(もみ殻t=5cm)



今後の課題

生分解性の材料「もみ殻」、「麻袋」を使用していることから、そのままでは、数年で防草効果が無くなってしまいます。現在は、視覚的にも美しく、繁殖力の強い芝桜を用い調査していますが、防草効果が無くなる前により効果のあるグランドカバーなる植物を今後も調査していきたいと考えています。